

社会福祉法人 照島会

令和6年度 事業実施報告

令和6年度は、国内外における大きな経済・社会の変動の中での事業運営となりました。

為替相場では円安基調が継続し、令和6年春には一時1ドル160円台を記録するなど、34年ぶりの円安水準となりました。これにより輸入食品やエネルギー価格が上昇し、一般消費者だけでなく、福祉施設の運営にも大きな負担がのしかかりました。

また、海外景気の低迷や円安の長期化は、日本の輸出や物資調達コストに影響を及ぼしており当法人においても、食材やエネルギー等の価格高騰が事業運営を圧迫しました。しかしながら、市からのエネルギー経費補助金の交付により、一定の負担軽減が図られたことは、事業継続において大きな助けとなりました。

さらに、令和6年度の介護報酬改定では、他産業と比較して賃金が低く、人手不足が深刻な介護分野の支援を目的として、プラス1.59%の改定が行われました。この改定は、コロナ禍や物価高騰の影響で経営が厳しい介護事業者の改善を図るものであり、当法人においても人材確保や処遇改善に活かして参ります。しかしながら、昨今の物価高騰への対応や人材不足の解消に向けては令和9年度の介護報酬改定及び食費・居住費等の公定価格の改定まで待てない状況であり、現在、全国老人福祉施設協議会が国に対して賃上げ支援と食費引き上げを要望しており早急に実現することが望まれます。

本年度はまた、当法人が運営する特別養護老人ホームが創立50周年という大きな節目を迎えました。4月には記念祝賀会を開催し、記念誌「愛の奉仕」も発刊いたしました。この50年という長きにわたり事業を継続できたのは、地域の皆様や関係者、職員の皆様のご支援の賜物であり心より感謝申し上げます。

また、6月21日の理事会において、和田拓郎が新たに理事長に就任し、9月には就任披露の会を執り行いました。新体制のもと、引き続き地域に根差した福祉の実現に邁進してまいります。

経営状況については、特養及び短期入所においては、職員体制を見直し、稼働率も前年度より改善したため、物価高騰による経費増の中でも前年度並みの収益を確保しました。デイサービスは、年度前半は利用者数が増えていきましたが、年度途中より、特養への入所、入院や体調不良等により利用者が大幅に減少し、大きな損失となりました。居宅介護支援事業所もケアマネジャーの欠員補充が出来ない間にケアプラン件数が減少し、損失が増えました。

今後は、特養において改築時に導入した設備等の更新や建物補修に多額の費用が必要になることが見込まれるため、特養が他事業所の赤字を補填し続けることが出来なくなることが予想されます。そのため、それぞれの事業が独立採算を目指し、事業ごとにいろいろな面から事業存続を検討していくことが求められています。

本 部

1. 退職職員

小瀬一久(特養介護士) 下菌則子(特養介護士) 西田龍星(特養介護士)
飯野鈴菜(特養介護士) 松下優里(特養事務員) 川口奈瑠美(特養介護士)
芹ヶ野愛(支援調査員) 内田準子(デイ介護士) 田村数馬(特養介護士)
以上9名

2. 新規採用職員

川添寿代(特養介護士) 勘場大輝(特養介護士) 花牟禮来士(特養介護士)
福山秀幸(特養介護士) 山下かおり(特養介護士) 下永田愛(デイ介護士)
中村彩花(特養介護士) 桃園孝弘(支援ケアマネ) 瀧村恵里香(支援調査員)
田村数馬(特養介護士) 以上10名

特別養護老人ホーム

特養は、創立50周年という大きな節目を迎え、次の50年を目指すべく新たな歩みをスタートしました。

新型コロナウイルスやインフルエンザに対して、感染防止対策の徹底を図りながら、入居者の面会を時間や人数の制限をなくし、外出や外泊も可能になるように緩和を図って参りました。また、行事やドライブ等で、施設外に出かける機会も増やしました。

また、例年より多くの方が退居されましたが、臨時の入居検討委員会を開催するなどスムーズな入居に努めた結果、前年度より稼働率が改善しました。

また、福祉教育・福祉人材の育成という観点から、高校の介護実習生・専修学校の看護実習生の臨地実習生等の受け入れを積極的に行いました。

昨今のますます厳しくなる人材不足に対応するため、いちき串木野市が進める「外国人留学生に対する支援事業」を活用し、神村学園専修学校日本語学科の2名のミャンマー人留学生の授業料を負担し、7年3月の卒業後は、特定技能の介護職員として採用しました。

短期入所生活介護事業(ショートステイ)では、令和4、5年度のコロナ禍で落ち込んだ利用が、少しずつではありますが回復し、稼働率が50%を超えました。

今後も、家族の介護負担軽減を図る為、在宅ケアマネジャーと連携をとりながら受け入れを進めて参ります。

1. 介護老人福祉施設（定員90名）

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ人数	32,012	31,816	196
ベッド稼働率	97.45	96.59	0.86
3月末平均介護度	4.09	4.17	△ 0.08
新規入居者	29	25	4
退居者	30	24	6

2. 短期入所生活介護事業(定員10名)

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ人数	1,875	1,823	52
ベッド稼働率	51.37	49.80	1.57
年間送迎回数	801	778	23
1日平均利用者	5.13	4.98	0.15

デイサービス

デイサービスでは、利用者が可能な限り住み慣れた自宅や地域で自立した生活を営むことができるよう支援して参りました。

各種の健康器具の活用やレクリエーション等を工夫しながら利用者のADLの維持向上に努めて参りました。

また、チラシ等の作成や別府地区・中尾地区においてミニデイサービスを実施し、地域の高齢者との交流や当デイサービスセンターのPR活動を行い、13名の新規登録がありました。

1. 通所介護事業 営業日数 253日

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ人数	4,060	4,288	△ 228
1日平均利用者	16.04	17.15	△ 1.11

2. 介護予防・日常生活支援総合事業

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ人数	453	520	△ 67
1日平均利用者	1.79	2.08	△ 0.29

支援センター

在宅介護支援センターは、前年度に引き続き市の委託を受け、要援護高齢者等の実態把握調査を実施しました。また、地域包括支援センターからの依頼を受け、必要に応じて地域包括支援センターの職員と訪問して問題解決を図って参りました。

実態把握調査

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ件数	1,081	710	371

居宅介護支援事業所は要介護者が自らの意思に基づき自立した生活をおくることができるよう支援して参りました。

また、事業所内研修や外部の研修会へも積極的に参加を行い、自己研鑽に努めて利用者の自立支援に資する質の高いケアプランの作成に努めて参りました。

ケアプラン作成、給付管理

項目	令和6年度	令和5年度	比較
年間延べ件数	809	1,081	△ 272